

ルーマニア月報

2017年5月号



平成29年6月9日
在ルーマニア大使館作成

Embassy of Japan in Romania
<http://www.ro.emb-japan.go.jp>

本月報はルーマニアの報道をもとに、日本大使館がとりまとめたものです。

(AG:アジェルプレス通信, ZF:ズィアルル・フィナンチアル紙, NO:ナインオクロック紙)

主要ニュース

- 【内政】 ●PNL党首選への立候補が締め切られ、オルバン元副党首及びブショイ欧州議会議員の2名が立候補を届け出た。
- 【外政】 ●ユンカー欧州委員会委員長は、ルーマニアを訪問し、ヨハニス大統領及びグリンデアヌ首相と協議を行った。
- ガブリレスク副首相兼環境相は、中国で開催された「一帯一路」国際協力ハイレベルフォーラムにルーマニア代表として出席した。
- 【経済】 ●2017年第1四半期のGDP成長率（推定値）は対前年同期比5.7%（季節調整前）及び5.6%（季節調整後）。
- 公共財務省は、4月末のルーマニアの財政収支は約13億5,000万レイ（約3億ユーロ）、対GDP比で0.17%の黒字であったと発表。
- 【我が国との関係】 ●石井大使は、ヴァシレスク労働・社会公正大臣、ヴァレカ研究・イノベーション大臣、ピロ下院外交委員長、ドゥミトレスク上院外交委員長及びバダラウ上院副議長をそれぞれ表敬し、意見交換を行った。

内政

■恩赦法制定を巡る動き

・3日、議会上院法務委員会において、恩赦法の対象に汚職に関する罪（贈収賄罪、職権濫用罪）で禁固3年以内の判決を受けた者を対象に含める法案改正が賛成5票（PSD, ALDE, PMP）、反対3票（PNL, USR, UDMR）で可決されたことを受けて、同日夕、首相府前で、1,000～2,000名規模の抗議デモが行われた。

【政党略称】

- ・ PSD：社会民主党。与党・中道左派
- ・ ALDE：自由民主主義同盟。与党・中道右派
- ・ PMP：国民の運動党。野党・中道右派
- ・ PNL：国民自由党。野党・中道右派
- ・ USR：ルーマニア救出同盟。野党・反既存政党勢

力

・ UDMR：ハンガリー人民民主同盟。閣外協力・ハンガリー系民族政党

・4日、前3日に起きたデモを受け、上院法務委員会は恩赦法案改正に関する採決を再度行い、恩赦の対象に汚職に関する罪を犯した者を含めるという前日可決された改正内容を撤回した。PSD, ALDE議員は同採決を棄権した。

・8日、上院法務委員会は、恩赦法案を上院本会議に提出したが、同日、与党連合（PSD+ALDE）は、同法案は政府原案のまま議会採決にかけられなければならないとして、法案を上院法務委員会に差し戻した。

・10日、ドラグネア PSD党首は、PSDは恩赦法の制定を悪用すべきではない、ニコラエ上院法務委員

長（PSD）は、同法案の改正に対する党からのマンデートを得ていなかったと述べ、同委員長の解任を発表した。

・23日、議会上院本会議は、上院法務委員会から恩赦法案に関する意見書が期限内に提出されなかったとして、同法案をサイレントプロシージャー（特段の反対のない限り無審議・無採決で法案を通過させる手続き）に付すことを決定した。同法案は29日に上院を通過し、最終議決機関である議会下院に送付された。政府原案のまま上院本会議を通過した同法案では、禁固5年以内の有罪確定者（汚職の罪及び暴力罪で有罪となった者を除く）が恩赦の対象となる。

■有罪判決を受けた者の閣僚就任を禁じる法律の合憲性に関する憲法裁判所判断

・4日、憲法裁判所は、有罪判決を受けた者の閣僚就任を禁じる法律の合憲性判断を求める訴えに対して、同訴えを棄却する判断を下した。憲法裁判所による判断は最終のもの。

これにより、2012年7月に行われたバセスク大統領（当時）罷免の是非と問う国民投票に際して違法な手段により有権者を動員したとして禁固2年の有罪（執行猶予付）が確定しているドラグネアPSD党首（下院議長）は、同法律を改正しない限り、首相職には就けないこととなった。

■2009年大統領選挙調査委員会の設置

・11日、議会上下両院合同会議は、賛成241票、反対86票で、2009年の大統領選挙に関する調査委員会の設置を決定した。同委員会の委員長にはフィフォル上院議長が就任した。

本件委員会の設置は、本年4月、アンドロニク「エヴェニメントゥル・ズィレイ」紙編集長が、大統領補佐官時代の経験として、2009年に行われた大統領選挙決選投票の際に情報機関関係者等が参加する秘密会合が催され、バセスク候補が勝利するよう選挙結果が操作されたことを示唆する記事が発表されたことを受けたもの。

・22日、アンドロニク「エヴェニメントゥル・ズィレ

イ」紙編集長が参考人招致された。

・23日、2009年大統領選挙に立候補していたジョアナ元PSD党首が同委員会に参考人招致された。

■PNL党首選に向けた動き

・9日、6月17日の党大会において行われるPNL党首選への出馬が取り沙汰されていたプレドイウ同党第一副党首は、同党首戦に立候補しない意向を表明した。同党党首選には、これまでオルバン元下院議員及びブショイ欧州議会議員（いずれも旧PNL所属）が立候補の意向を表明しており、旧PDL（民主自由党）所属のプレドイウ第一副党首の不利が報じられていた。

・15日の締切りまでに党首選立候補を届け出たのは両候補のみ。ブショイ欧州議会議員（同党ブカレスト支部長）はヨハニス大統領に近い人物。他方、オルバン元下院議員は、昨年の議会総選挙前に汚職に関する刑事捜査が及んだことを受けて（その後、不起訴）下院議員及び同党副党首の職を辞しているが、報道によれば、現時点での有利が伝えられている。

■その他

【ドラグネアPSD党首のUDMR党大会出席】

・13日、ドラグネアPSD党首は、ザラウ市（サラージュ県。ルーマニア北西部）で開催されたUDMR党大会に出席し、UDMRはすでに与党連合と閣外協力に関する協定を締結しているが、同党は次の段階に踏み出しても良いはずだと述べ、UDMRの与党入りを歓迎する意向を示唆した。

【ダンUSR党首の再選】

・12-14日かけて、クルージュ＝ナポカ市（クルージュ県。ルーマニア中部）においてUSR党大会が開催され、ダン同党党首が再選した。

■世論調査結果

・15日付当地報道は、世論調査機関IMASが「レアリターテアTV」（中道右派、ヨハニス大統領寄り）からの依頼を受けて4月に行った支持政党等に関する世論調査の結果について報じた。概要は次のとおり。

【支持政党】

- ・ PSD : 40.6%
- ・ PNL : 25.4%
- ・ ALDE : 8.4%
- ・ USR : 8.2%

【主な公的人物の信頼度】

- ・ ヨハニス大統領 : 35.2%
- ・ グリンデアヌ首相 : 33.9%
- ・ ドラグネア下院議長 : 24.2%

・ 17日付当地報道は、世論調査機関 Avangarde（中道左派寄り）が行った将来の大統領選挙候補者に対する支持率等に関する世論調査の結果について報じた。概要は次のとおり。

【支持政党】

- ・ PSD : 44%
- ・ PNL : 24%
- ・ USR : 12%
- ・ ALDE : 8%
- ・ UDMR : 5%
- ・ PMP : 3%

【主な公的人物の信頼度】

- ・ フィレア・ブカレスト市長 : 59%
- ・ グリンデアヌ首相 : 48%
- ・ ヨハニス大統領 : 47%
- ・ タリチャーヌ上院議長 : 44%
- ・ ポンタ元首相 : 39%

【将来の大統領選挙においてフィレア候補とヨハニス候補が決選投票に残ったらどちらに投票するか】

- ・ フィレア候補 : 44%
- ・ ヨハニス候補 : 40%

外政

■主な要人往来

ルーマニア月報

・ 3-4日、グリンデアヌ首相は、イスラエルを訪問し、リヴリン大統領及びネタニヤフ首相と個別に会談を行った。

・ 4日、メレシュカーヌ外相は、独ルーマニア友好条約25周年に際してルーマニアを訪問したロート独国務大臣（欧州担当）と会談を行った。

・ 9日、グリンデアヌ首相は、オーストリアを訪問し、ケルン首相と会談を行った。

・ 11日、ユンカー欧州委員会委員長はブカレストを訪問し、上下両院総会で演説した他、ヨハニス大統領及びグリンデアヌ首相と協議を行った。

・ 15日、メレシュカーヌ外相は、ブリュッセルで開催されたEU外務理事会に出席した。

・ 16日、ビルチャル欧州問題担当相は、ブリュッセルで開かれたEU総務理事会に出席した。

・ 18日、グリンデアヌ首相は、ルーマニアを訪問したヴェステアー競争政策担当欧州委員と協議を行った。

・ 18-19日、メレシュカーヌ外相は、キプロスで開催された欧州評議会閣僚委員会に出席した。

・ 19日、ビルチャル欧州問題担当相は、モルドバを訪問し、モラリ外務・欧州問題担当副大臣と共に、ルーマニア・モルドバ欧州統合政府間委員会の議長を務めた。

・ 22日、メレシュカーヌ外相は、イスタンブールで開催された黒海経済協力機構の会合に出席し、モルドバ、ジョージア及びウクライナの欧州統合への支援について述べた。

・ 22日、ビルチャル欧州問題担当相は、ブリュッセルで開かれた27ヶ国でのEU総務理事会に出席した。

・ 23日、メレシュカーヌ外相は、ルーマニアを訪問したファーイズ・ヨルダン上院議長と会談を行った。

・ 24日、グリンデアヌ首相は、ルーマニアを訪問したラタス・エストニア首相と会談を行った。

・ 25日、ヨハニス大統領は、ブリュッセルで開催されたNATO首脳会合に出席した。

・ 26-27日、メレシュカーヌ外相は、スロバキアで開催されたGLOBSEC（安全保障に関する国際フォーラム）に出席した。

・29日、チャールズ英皇太子は、クルージュ・ナポカのパベシュ・ボヤイ大学を訪問し、名誉博士号を授与された。

・31日、メレシュカーヌ外相は、ニューヨークを訪問し、国連安保理非常任理事国（2020-21）への選出に向けた働きかけを開始する。6月3日まで滞在し、グテーレス国連事務総長等と会談を行う予定。

■EU関係

・11日、ルーマニアを訪問したユンカー委員長は、協力・検証メカニズムに基づくルーマニアの司法改革及び汚職対策について、ヨハニス大統領と協議を行った。

また、EUの複数の統合速度を望んでいないことを明言し、欧州を分断する新たな鉄のカーテンを設置する考えがないことを強調した。更に、ルーマニアが、シェンゲンに加盟することを強く望んでいると述べた。

【難民問題】

・16日、欧州委員会の発表した報告書によると、これまでにルーマニアは、難民の割り当て人数4180人に対し568人を受け入れている。間もなく、EU・トルコ間の協定に基づくトルコからの難民受け入れを実施する予定である。

■中国関係

・14-15日、ガブリレスク副首相兼環境相は、中国で開催された「一带一路」国際協力ハイレベルフォーラムにルーマニア代表として出席した。

同副首相は、「政策協調と開発戦略シナジー」分科会において、ルーマニアがEU・中国戦略的パートナーシップの考え方を完全に支持し、その実現に参画していると述べた。また、「一带一路」構想の下で実施されるプログラムに対するルーマニアの優位性として、黒海（欧州と中東、コーカサスを繋ぐ）最大のコンスタンツァ港を有することなどを挙げた。

■北朝鮮関係

・15日、ルーマニア外務省は、北朝鮮による弾道ミ

사일發射実験を非難するプレスリリースを發出した。また、22日にも、同様にミ사일發射実験を非難するプレスリリースを發出。

■米国関係

・18日付報道によると、トランプ米大統領の子息（ドナルド・トランプ Jr. 及びバロン・トランプ）が、ルーマニア議会等の招待により、それぞれジュルジウ、クルージュ等を訪問し、数日間を過ごす予定（時期は明らかにはなっていない）。

■英国関係

・23日、グリーンデアーヌ首相は、マンチェスターで発生した爆破テロ事件を受けて、犠牲者及び負傷者の家族、また、すべての英国国民への深い同情の念を示した。

■軍事・安全保障関係

・23日、米「フォーリン・ポリシー」紙が、ドイツ軍がルーマニア、オランダ及びチェコ軍を独軍に統合することによってNATOと並行して暗黙のうちに欧州軍を創設しようとしていると報じたのに対し、レシユ国防相は、独軍への各国部隊統合はNATOの決定に従って行われているものであり、NATOの枠組みから離れて行われているものではないと反論した。

・25日、NATO首脳会合に出席したヨハニス大統領は、ワーキングディナーに先立ち、トランプ米大統領、メルケル独首相、マクロン仏大統領、トルドー加首相等と短時間の協議を行った。また、ドゥダ・ポーランド大統領と二国間会談を実施した。

ヨハニス大統領は、黒海周辺の地域情勢への懸念を示すと共に、ロシアに対する統一された対応を望むと述べた。また、NATOの軍事演習やテロ対策は、NATOの存在感を高めるものとなっていると付言した。

■経済

■マクロ経済

（特に記載のない限り、対前年比又は前年同期比、季節調整後、出典は国家統計局INS）

【3月分統計】

(1) 鉱工業

	2月	3月
工業生産高	5.5%	8.2%
工業売上高(名目)	7.5%	14.4%
工業製品物価指数	3.9%	3.9%
新規工業受注高(名目)	9.8%	18.9%

工業生産高、工業売上高(名目)及び新規工業受注高(名目)が加速。

(2) 販売

	2月	3月
小売業売上高 (自動車・バイクを除く)	7.8%	7.7%
自動車・バイク売上高	15.6%	18.5%
小売業売上高 (ユーロスタット)	ユーロ圏 1.8% EU28か国 2.2%	ユーロ圏 2.3% EU28か国 2.5%

自動車・バイク売上高が加速。

なお、3月の小売業売上高(ユーロスタット)対前年同月比では、スロベニア(+10.4%)が最も増加し、次いでルーマニア(+9.1%)及びルクセンブルク(+7.8%)。

(3) その他

建設工事	1月	2月
	▲9.1%	▲6.1%

建設工事がやや改善。

(4) 輸出入

	2月	3月
輸出	€50億7,100万 (5.4%)	€57億1,100万 (15.9%)
	RON228億6,280万 (5.7%)	RON259億1,910万 (17.8%)
輸入	€57億2,360万	€67億6,670万

入	(5.5%)	(14.8%)
	RON258億710万	RON307億1,100万
	(5.9%)	(16.7%)

【1月～3月分統計】

(1) 鉱工業

	2月	3月
工業生産高	5.6%	6.7%
工業売上高(名目)	8.7%	10.9%
新規工業受注高(名目)	9.2%	12.7%

新規工業受注高(名目)が加速。

(2) 販売

	2月	3月
小売業売上高 (自動車・バイクを除く)	7.1%	7.4%
自動車・バイク売上高	14.2%	16.1%

自動車・バイク売上高が加速。

(3) その他

建設工事	2月	3月
	▲7.6%	▲6.4%

(4) 輸出入

	2月	3月
輸出	€97億4,990万 (9.2%)	€154億6,050万 (11.5%)
	RON439億4,570万 (9.1%)	RON698億6,260万 (12.2%)
輸入	€110億890万 (10.9%)	€177億7,800万 (12.4%)
	RON496億2,350万 (10.9%)	RON803億4,490万 (13.1%)
貿易収支	▲€12億5,900万 (▲€2億6,750万)	▲€23億1,750万 (▲€3億6,150万)
	▲RON56億7,780万 (▲RON12億1,930万)	▲RON104億8,230万 (▲RON17億1,460万)

【4月分統計】

・消費者物価指数

	3月	4月
全体	0.18%	0.61%
食料品価格	1.67%	2.24%
非食料品価格	▲0.25%	0.25%
サービス価格	▲1.39%	▲1.35%
消費者物価指数 (ユーロスタット)	ユーロ圏 1.5% EU28か国 1.6%	ユーロ圏 1.9% EU28か国 2.0%

4月の消費者物価指数(ユーロスタット)対前年同月比では、ルーマニア(0.6%)、アイルランド(0.6%)及びスロバキア(0.8%)が最も低い。

【その他統計】

・16日、INSはルーマニアの2017年第1四半期のGDP成長率(推定値)を対前期比1.7%(季節調整後)、また対前年同期比では5.7%(季節調整前)、5.6%(季節調整後)としそれぞれ据え置いた。

■IMF、国際機関関係

・10日、欧州復興開発銀行(EBRD)はルーマニアの2017年の経済成長予測を、2016年11月時点での3.7%から、4.0%に修正した。増とした。(10日付AG)

・11日、欧州委員会によって発表された経済予測によると、2017年のルーマニアの経済成長は4.3%の増加となり、2016年末の4.4%の予測を下回った。下方修正の主な理由としては、ルーマニアの過剰財政赤字、統一給与法等が考えられる。(11日付AG)

■産業界の動向

・2日、フランス自動車製造者委員会(CCFA)によると、4月におけるフランスでのダチア新規登録台数は10,746台になり、対前年同月比で5.3%減少した。フランスの自動車市場全体は6.0%減少した。1月～4月にかけては、ダチア新規登録台数はルーマニア月報

4万898台になり、対前年同期比で2.4%増加した。1月～4月にかけて、フランスの自動車市場全体は2.0%増加した。

・2日、RE/MAX(アメリカのグローバルな不動産ネットワーク)の分析によると、ルーマニアの都市部の住宅やアパートの価格は、2016年の水準と比較して2017年末までに8-10%上昇すると予想される。ルーマニアでは、2016年に都市部のアパートの平均販売価格は1,150ユーロ/平方メートルであった。(2日付AG)

・3日、Autovit.roのデータによると中古車市場は、2017年第1四半期に前年同期から倍増し、13万台に達した。(3日付AG)

・10日、ブカレストの土地市場では、昨年、110億ヘクタールの土地が取引され、2015年に比べて144%増となった。不動産会社のCushman & Wakefield Echinoxの調査によると、不動産土地取引額は1億2,700万ユーロで、前年より41%増加した。(10日付AG)

・12日、ルーマニア運転免許証・自動車登録局(DRPCIV)によると、4月の新車登録台数は9,776台に達し、対前年同月比で約0.40%増加した。

・16日、欧州自動車工業会(ACEA)によると、4月におけるヨーロッパでのダチア自動車新規登録台数は3万6,816台となり、対前年同月比で2.5%減少した。1～4月にかけては、ダチア自動車新規登録台数は14万5,863台となり、対前年同月比で6.1%増加した。

・23日、ルーマニア自動車生産者輸入業者協会(APIA)によると、1～4月の車両販売台数は40,581台で、対前年同月比で12.6%増加した。2017年1～4月のメーカー別自動車販売は1位がダチア(8,341台、市場シェア:26%、対前年同期比で7.6%増加)で、次いでVolkswagen(3,793台、市場シェア:11.8%、対前年同期比で24%増加)、Skoda(3,055台、市場シェア:9.5%、対前年同期比で3.9%増加)、Renault(2,429台、市場シェア:7.6%、対前年同期比で35.9%増加)、Ford(2,361台、市場シェア:7.4%、対前年

同期比で26.1%増加), Opel (1,470台, 市場シェア:4.6%, 対前年同期比で35.2%増加)。

■公共政策

・31日, 欧州基金省は, 欧州基金(2007~2013年)の2017年5月末の執行率を90.44%と発表。1月末から不変。

■財政政策

・2日, 国税庁(ANAF)は, 2017年の最初の4カ月間に684億5,000万レイ(約152億1,100万ユーロ)を徴税し, 2016年の同じ期間に比べて2.71パーセント増加したと発表した。(2日付AG)

・25日, 公共財務省は, 4月末のルーマニアの財政収支が約13億5,000万レイ(約3億ユーロ), 対GDP比で0.17%の黒字であったと発表。3月末の財政収支は約15億2,350万レイ(約3億3,850万ユーロ), 対GDP比で0.19%の黒字であった。

■金融等

・2日, 4月末の外貨準備高は359億6,000万ユーロ(3月末の346億9,500万ユーロから増加), 金準備高は103.7トンで不変。(ルーマニア中央銀行:BNR)

・5日, BNRは, 政策金利を年率1.75%で据え置くことを決定した。最低準備率は, 5月24日から外貨建で10%から8%に引き下げ, レイ建は現行の8%で維持。(BNR)

・15日, 3月末の経常収支等について次のとおり発表。

(1) 経常収支は6億9,000万ユーロの赤字。なお, 前年同期には3億1,400万ユーロの赤字であった。

(2) 外国直接投資(FDI)は, 10億7,500万ユーロ。なお前年同期は7億7,500万ユーロ。

(3) 中長期対外債務は, 2016年末から不変で, 689億6,800万ユーロ(対外債務全体の7

4%)。

(4) 短期対外債務は, 2016年末から3.5%増加して, 242億2,400万ユーロ(対外債務全体の26%)。(BNR)

■労働・年金問題等

・2日, ILO基準による3月末の失業率は2月末の5.4%から0.1%ポイント減少し, 5.3%であった。(INS)

・9日, 3月の平均給与(グロス)は, 3,256レイ(約724ユーロ)で, 対前月比で4.8%増加。平均給与(手取り)は2,342レイ(約521ユーロ)で, 対前月比で106レイ(4.7%)上昇。なお, 平均給与(手取り)が最も高かった業種は, IT&C分野(5,880レイ, 約1,307ユーロ)で, 反対に最も低かったのは宿泊・飲食業(1,369レイ, 約304ユーロ)であった。(INS)

・3日, 国家雇用庁(ANOFM)は, 3月末の失業率を, 2月末の失業率から0.16%ポイント減少し, また, 前年3月末の失業率から0.23%ポイント低下して, 4.55%となったと発表。

・31日, ILO基準による4月末の失業率は3月末の5.3%から不変であった。(INS)

■格付(2017年6月9日付)

Fitch	外貨建長期(国債)	BBB-	(安定的)
	自国通貨建長期	BBB	(安定的)
S&P	外貨建長期	BBB-	(安定的)
	自国通貨建長期	BBB-	(安定的)
JCR	外貨建長期	BBB	(安定的)
	自国通貨建長期	BBB+	(安定的)
			(内はアウトルック)

■我が国との関係

・石井駐ルーマニア大使は, ヴァシレスク労働・社会公正大臣(8日), ヴアレカ研究・イノベーション大臣(23日), ビロ下院外交委員長(UDMR)(9

日) , ドゥミトレスク上院外交委員長 (PSD) (17日) , バダラウ上院副議長 (PSD) (24日) をそれぞれ表敬し, 両国間の議会間関係や経済関係の強化等について意見を交換した。

・ 3日, ブカレスト国立美術館にて柳澤紀子氏の版画展覧会「夢の地面」が始まった。

・ 19日, ルーマニア・アメリカン大学の「Zilele Culturii Japoneze」で, アニメ「攻殻機動隊」の上映会, 及び神山健治監督等アニメ制作者のトークショーが行われた。